

留学報告書

4ヶ月の留学生活で得た濃密経験

メンフィス大学
商学部（中期）

たった4ヶ月の留学生活だったが、本当に濃い日々を過ごした。
中部国際空港から成田空港を経由してダラス空港までは順調だった。しかし、メンフィス行きの飛行機が遅延しており、ダラス空港で4時間待機することに。メンフィス空港に着いたのは現地時間の深夜0時。そこから寮の手続きを終え、部屋に入れたのは1時頃だった。時差ボケもあり、体は疲れ切っていた。私の寮は9人部屋で、それぞれに個室があり、風呂は3つ、トイレは4つ、キッチンと冷蔵庫は1つずつ、リビングは2つある広めの施設だった。しかし、到着翌日は朝8時にオリエンテーションがあり、ほとんど寝ることもできずに参加することになった。オリエンテーションにはドイツ人4人、日本人5人（私と名古屋学院の学生を含む）がいて、現地の学生もサポートしてくれた。

メンフィスは田舎の雰囲気が強い。英語のアクセントも独特で、聞き取りづらいことが多かった。それでも、私たちが理解できていないと気づくと、現地の人たちはゆっくり話してくれたし、私たちが話す時も優しく待ってくれたのが印象的だった。オリエンテーション中は朝昼晩の食事が無料で提供され、サンドイッチやハンバーガー、ピザなどアメリカの味を存分に堪能した。また、現地の学生が車を出してくれて、生活必需品の買い出しにも連れて行ってくれた。

その後5日間は、メンフィスの街や学校を案内するオリエンテーションが続いた。ウェルカムパーティーも頻繁に開催され、食事には困らないほど無料の食べ物が配られていた。しかし、毎回のメニューがピザ、ハンバーガー、ナチョス、ホットドッグの繰り返しだったので、正直なところ少し飽きた。ボリュームで美味しいけれど、かなり脂っこかった。授業が始まるまでの10日間は特にやることがなかったので、ドイツ人の留学生たちとよく一緒に行動した。彼らはメンフィスのアクセントがなく、英語が聞き取りやすかったのも助かった。しかし、自分の英語力のなさを痛感する場面も多く、思うように会話ができないことが辛かった。それでも、「たった4ヶ月だけだから、失敗してもいい」と自分に言い聞かせ、間違った文法でもとにかく話すようにした。1週間ほど経つと、徐々に寮にルームメイトが増えてきた。桜美林大学からの日本人2人、そしてアメリカ人が新しく入居してきた。

授業と新しい出会いと生活

オリエンテーション期間中にクラス分けテストがあり、私は日本人2人、ブラジル人、スペイン人、中国人の計5人のクラスに入った。先生はアラビア人の方で、毎朝9時から12時まで授業を受けた。クラスメイトはみんな優しく、日本人以外は全員大人だった。休憩時間には手作りのケーキやドーナツ、コーヒーをご馳走してくれることもあり、温かい雰囲気

のクラスだった。日本で勉強するよりも理解しやすく、授業はとても楽しかった。午後は火曜と木曜にコミュニケーションクラスがあり、そこでは日本人5人、韓国人、ブラジル人、メキシコ人2人と一緒だった。特に韓国人の学生と仲良くなり、一緒にご飯を食べたり、他愛のない話をしたりするようになった。月曜と水曜の午後には発音のクラスがあった。ここが一番難しかった。元々発音が苦手だったので、授業についていくのが大変だった。

ある日、夜ご飯を作ろうとした時に突然の停電が起きた。40分間電気が使えず、料理もできず、本当に不便だった。しかも、停電は家の中だけではなく、外の信号機まで止まっていた。あたりは真っ暗になり、そんな中でも車はスピードを出して走っていた。「危ないな……」と思っていたら、突然「ガシャーン！」という大きな衝撃音が響いた。車がクラッシュした音だった。停電しているのに信号無視して走っていたんだろう。次の瞬間、電気が復旧し、外を見ると車がぐしゃっと潰れていた。その光景は衝撃的で、しばらく言葉を失った。

メンフィスでの生活とカヌー体験

名古屋学院に来ていたアメリカ人のブランドン、イーサン、アジムと友達になり、ブランドンはさらに別の友達を紹介してくれた。買い物にも連れて行ってくれて、本当にありがたかった。ある日、ブランドンやアジム、日本人5人を含む計10人でカヌーに行った。初めてのカヌーで、どれくらい漕ぐのか聞いたら「5時間」と言われた。冗談かと思ったが、本当に5時間漕ぎ続けることになった。カヌーの後はみんなでご飯に行き、充実した1日だった。ただ、日焼け止めを忘れたせいでひどい日焼けをし、1週間ほど筋肉痛と痛みを苦しんだ。

ロサンゼルス、ニューヨーク、そして別れ

10月中旬にはテストがあり、その後1週間のフォールブレイクがあった。日本人2人とロサンゼルスに旅行したが、メンフィスとはまったく違う都会の雰囲気圧迫された。ホームレスの列が長く、貧困格差を目の当たりにした。ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドでは、ハロウィン期間中だったこともあり、朝8時から深夜2時まで遊び尽くした。11月下旬にはサンクスギビングがあり、親戚の家でターキーや美味しい料理をご馳走になった。ブラックフライデーでは服や靴も買ってもらい、大満足だった。その後、1人でニューヨークにも行った。『ホーム・アローン』が好きなので、ロックフェラーセンターのクリスマスツリーを見に行った。しかし、ホームレスに2回つけられたり、「お金をくれ」と言われたり、差別を受ける場面もあった。それでも、観光客のそばを歩き、堂々とした態度でいることで、そこまで怖く感じなくなった。街並みは美しく、観光自体は楽しかった。メンフィスに戻ってからは、友達と過ごす時間を大切にした。誕生日を迎えた日本人の友達とアメリカ人の友達でボウリングに行き、最後にメンフィス名物のバーベキューを食べた。サプライズの誕生日ケーキも用意し、最高の思い出になった。

アメリカで過ごした4ヶ月は、日本では経験できないことばかりだった。楽しいことも、辛いこともあったけど、すべてが自分にとって大きな学びになった。